

2月定例活動

# アカマツ林再生プロジェクト



まで持ち出す手間のかかる作業でしたが、もう少しで尾根全体の作業を完了できそうです。母樹となるアカマツも何とか持ちこたえ、元気な様子です。



▲海外からの参加者の皆さん



▲明るくなった尾根にはアカマツなどの実生木が再生

伊藤さんの通訳で、カナダの方に里山保全の必要性を説明すると、「山火事も自然環境に対して大変な悪影響を与えると考えがちだが、実は森の更新・再生にとって大切な事でもある」と、木を伐る里山保全の必要性も十分に理解されていたことが印象的でした。(眞弓)

ほかほか陽気のこの日は散策エリア尾根部で恒例の「アカマツ林再生」活動です。マツクイムシ被害で衰弱していたアカマツ林を再生しようと、2000年度から始まったこの活動も12年目となります。

明るくなった尾根では実生のアカマツがたくさん育ち、樹高1mを超えるものも見られます。陽性・乾燥・貧栄養の環境で元気に育つアカマツのために、被圧木を伐採し、林床の落ち葉をかき取り、斜面部

この日は、カナダ、イギリス、オーストラリアから伊藤さんの友人が参加され、国際的な保全活動となりました。



▲好奇心の旺盛な坊やも作業に参加



▲伐採材を使ってビートルアパートの改修も行われた

## シリーズ『森の住人たち』⑳

### ～アワフキムシ（泡吹虫）～

#### －ホタルは泡から生まれる！？－

「ホタルはあの泡から生まれるのね」自然観察会の参加者のひとりが指差す方向を見ると、アカマツの新梢に泡状のものがついていた。

「ええっ～、本当？」別の参加者は半信半疑。

自然観察会では、その場でしかも自らの目で確認することができる。小枝でそっと泡をかき分けると、1cm程の昆虫が現われた。頭部、胸部の約3分の2が黒く、その下の腹部は橙色。もちろん参加者の常連さんのなかには、それが何であるかをすでに知っている人もいる。しかし、そこは初参加の人に譲歩し、私たち自然観察指導員と一緒に成り行きを見

守っている。

「ちょっと違うんじゃない」

「ホタルは頭の方が赤くて、後は全体的に黒いわよ」

初参加の何人かが、目前の対象物の感想をそれぞれ口にする。

実はこの泡状のものは、アワフキムシ科の「マツアワフキ」の幼虫が潜んでいる。幼虫は排泄物を泡立てた巣のなかで、アカマツの木の汁を吸って成長する。成虫は茶色っぽい体で、マツの根元などで見つかることが多い。泡状の白色は結構目につく上に、奇妙であるために関心を持つ人が多い。古くから、この泡のなかからホタルが生まれると信じられてきた。昆虫が黒っぽい体をしているためにホタルを連想させるよう

アワフキムシ アワフキムシ科  
体長 10mm前後（幼虫の種類による）  
分布 全国に分布



▲マツアワフキムシが潜む泡状の巣

だ。

このアワフキムシの泡は、地方によってはヘビのツバといわれている。また南フランスでは、この泡をカッコウ（野鳥）のツバであるといっている。その地域差がおもしろい。

※アワフキムシの種類は複数あり、ヨモギ、クワなどさまざまな植物で観察できる。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)